

2016年度 第4四半期決算説明会
主な質疑応答

- Q: 不適切な会計処理は、ニュージーランド、オーストラリア以外はないと考えてよいか？社内委員会ではニュージーランドだけとのことだったが、第3者委員会の調査でオーストラリアでも見つかったのはなぜか？
- A: 今回の問題は、売上計上にあたりオペレーティングリースで処理すべきものをキャピタルリースで処理したことが原因。その精査には何万件という契約をチェックする必要があった。社内調査では限界があり、第3者委員会にお願いした。ニュージーランド、オーストラリア以外の海外の関連会社や日本もチェックいただいたが、他は問題なかった。
- Q: 富士ゼロックスの経営管理部門を富士フイルムホールディングに統合するとの話があったが、統合によるコスト削減効果を2017年度に織り込んでいるか？
- A: 統合の一番の目的は、コスト削減ではなく、ガバナンス強化である。よって現在のところ、削減効果は織り込んでいない。これから検討をしていくことになる。
- Q: チェキの2016年度販売実績、及び2017年度の計画は？
- A: チェキの2016年度の実績は660万台。2017年度は750万台を目指す。今年投入したスクエアタイプの新製品 instax SQUARE SQ 10も順調なスタートを切った。
- Q: イメージング事業の利益が改善しているようだが、その要因は？
- A: チェキに加えて、デジタルカメラも好調。特に2月に発売した大型イメージセンサーを搭載した中判ミラーレスデジタルカメラ GFX50S が好調。X-T2 など他のレンズ交換式カメラや、交換レンズも好調で、それらが収益率の向上に貢献している。
- Q: ドキュメント事業の2017年度業績予想が、増収増益となっているが、市場の状況から見て無理があるのではないか？
- A: 複合機のハード販売ビジネスだけを見れば、伸びない市場と思われるかもしれないが、中小企業の情報セキュリティやIT支援など、サービス事業領域まで広げると、富士ゼロックスが貢献できる部分は大きい。当社が強みを持つIoT、AI、画像処理等の技術を活用してサービスビジネスを成長させたい。